

A01 生産計画と工程管理

【受講対象】

中堅層

【概要】

多品種少量化や短納期化など、顧客の多様なニーズに適した生産計画の策定を目指して、工程管理に必要な視点、生産計画・統制への柔軟な取り組み方について理解し、自社の納期管理を見直していくためのポイントを習得する。

会場：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 愛知支部 名古屋事務所
(名古屋市中区錦1-10-1 MIテラス名古屋伏見5階)

講師：松村 佳洋（一般社団法人中部産業連盟）

カリキュラム

■ 工程管理の考え方 《3h》

ものづくりを取り巻く環境変化

- ・大変革期をどう勝ち抜くか
- ・利益 = 売上 - 原価
- ・変化に対応する

生産性向上

- ・生産性とは
- ・生産性向上の着眼点

改善の着眼点

- ・問題発見、問題解決能力の重要性
- ・改善マインド
- ・ムダの考え方

演習 ～動作改善～

「模擬ライン(VTR)による動作改善」

VTRによる模擬ラインでのものづくりを分析する。講義で学んだ動作改善の着眼点を中心にムダを抽出して、現状の「当たり前」を疑い、業務の中で視点を変えるだけで改善できることを学ぶ

■ 生産計画の立案 と作成手順 《3h》

生産管理の基本的な考え方

- ・生産管理のあるべき姿
- ・受注の取り方（受注生産or見込み生産）
- ・生産の形態（個別生産、ロット生産、連続生産）
- ・ものづくりで重要な4つの「時間値」とライン能力の関係

生産計画の立案

- ・需要予測に基づく生産計画
- ・生産能力に合わせた負荷計画
- ・在庫管理と生産リードタイムの関係
- ・一般的な生産の問題点
- ・多品種少量生産の課題

演習 ～造り方で原価は変わる～

「生産計画におけるロット生産と平準化生産の違い」を専用のキットを使い、ロットでものを流した場合と平準化（1個ずつ）でものを流した場合の違いを「納入個数」「収益」「原価」「顧客満足度」の4つの観点で検証する